

脇

太郎左衛門ガ草摺ノ外レシタ、カニ突所ヲ彌三郎太刀振翳シ、透間ナク切テ懸リケル間、福島
館ヲ捨、太刀ヲ拔ントスル所ヲ彌三郎、左ノ高股ヲ寸ト切タリケレ共、福島少モ不疼、彌三郎ガ内
胄シタ、カニ切タリケリ、

〔新撰字鏡〕足跨苦化反去、踞也、股也、蹠也、渡

〔新撰字鏡〕足跨苦化反去、踞也、股也、蹠也、渡

〔倭名類聚抄〕脇身體、脇唐韻云、脇名萬太、兩股間也、

〔箋注倭名類聚抄〕說文、脇股也、廣韻同、按希麟音義引切韻與此同、

〔類聚名義抄〕肉、脇、脾、唐韻云、脇、脾、俗、脇俗歟

〔増補下學集〕支體、脇

〔倭訓栞〕前編二十九、また、股字をよむは間立の義にや、和名抄に脇をよめり、

〔古事談〕臣節伴大納言善男者、佐渡國郡司從者也、於國善男夢爾見様、西大寺與東大寺ヲ跨ゲテ立
タリト見テ、妻女ニ話此由ヲ、妻云、ソノマタコソハサカレンズラメト合ニ、善男驚キテ、無由事ヲ
語テケルカナト恐思テ、主ノ郡司宅へ行向之處、郡司極タル相人ニテ有ケルガ、日來ハ其儀モナ
キニ、事外饗應シテ圓座トリテ出向テ召昇ケレバ、善男成怪、我ヲスカシノボセテ、妻女ノイヒツ
ル様ニ跨ナドサカンズルヤラント恐思之處、郡司云、汝ハ無止高相ノ夢ミテケリ、而無由人ニ語
テケリ、必大位ニハ至ドモ、定依其徵不慮之事出來有坐事云々、然間善男付縁京上果至大納言、然
而猶坐事、不違郡司言云々、

〔倭名類聚抄〕脇宿、宿耀經云、左右腿股、腿音退、和名字知阿波世。

〔箋注倭名類聚抄〕原書秘密雜要品、今本云、若觸右腿脣者屬室宿、若觸左腿脣者屬壁宿、古抄
本作右邊腿脾、左邊腿脾、此所引卽是、按脣脾一聲之轉、此引作股、恐誤、慧琳音義腿、正體從骨作脣、
字書、體也、按體訓兩股間見廣韻、故訓字智阿波勢、言兩股可擊也、新撰字鏡、股訓字豆毛々者、與此